

第 6 回奈良市都市計画マスタープラン策定委員会会議録

開催日時	平成 27 年 3 月 23 日（月）午後 1 時 30 分から午後 3 時 30 分まで	
開催場所	奈良市役所 中央棟 6 階 正庁	
議 題	1 第 5 回委員会意見及びパブリックコメントへの回答 2 その他	
出席者	委員	杉江会長、岡田委員、尾崎委員、工藤委員、林委員、前迫委員、魚谷委員【計 7 人出席】 (欠席：大窪副会長、井原委員)
	オブザーバー	新堂委員（地域Ⅱ）、青山委員（地域Ⅴ）、上野委員（地域Ⅵ）、中口委員（地域Ⅶ）、上田委員（地域Ⅷ）、植委員（地域Ⅸ）【計 6 人出席】 (欠席：浦辻委員（地域Ⅰ）、辻澤委員（地域Ⅲ）、藤田委員（地域Ⅳ）)
	事務局	津山副市長、東井都市整備部長、宮本都市計画室長、喜多課長、角井課長補佐、扇谷係長ほか【計 12 人出席】
開催形態	公開（傍聴人 0 人）	
担当課	都市整備部都市計画課	
議事の内容		
<p>1 第 5 回委員会意見及びパブリックコメントへの回答 上記項目について、次の資料を基に、概要を事務局から説明。</p> <p>(1) 第 5 回委員会意見回答 (2) 第 5 回委員会意見に対する修正（計画抜粋） (3) パブリックコメント意見回答 (4) パブリックコメント意見に対する修正（計画抜粋） (5) 改訂 都市計画マスタープラン概要版（案） (6) 説明用パワーポイント</p>		
会長	事務局から説明いただいた。ご質問等をお願いします。	
岡田委員	<p>資料 5：概要版の言葉づかいについて、P22 の③都市拠点で「防災や歴史的環境に配慮した商業と住宅が」とあるが、「商業と住宅が共存する」という言い方は少し違和感がある。「商業施設と住宅が」の方が適切ではないか。</p> <p>P23 の「多自然川づくり」についても、もう少し自然な言い方で「自然豊かな川づくり」とか、そういう方がわかりやすいのではないか。</p> <p>P28 など地域別方針図の「市街地」及び「市街化調整区域」の土地利用について、市街化調整区域だから放っておくということではないと思うが、ただ「既存集落」とするのではなく、「“良好”な既存集落」とした方が良いのではないか。</p> <p>また、市街地は「良好な生活環境」ではなく「都市機能の充実した生活環境が形成」とした方が良いのではないか。</p>	

良好な、適切などといった前向きな表現の方がよいと思う。

事務局 概要版の表現は、計画書の表現をコンパクトにまとめて引用している。
ご指摘の表現等については、内部で修正等を検討します。

岡田委員 資料3：パブリックコメント回答 P9 にある火葬場について、「規模、能力を十分な検討を行ったうえで」といった表現は必要かという意見に対して、「削除します」と回答している。
これは、表現の問題というよりも、規模、能力を検討する段階ではない。差し迫って、何らかの対応をしてくれという意見ではないだろうか。
例えば、「円滑に利用できる充実した施設を早急に整備する」などにした方が良いのではないかと思う。
この意見は、決して削除を求めているのではなく、こういう表現ではなまぬるいと言っているような気がする。
パブリックコメント回答 P13 にある広域的な役割について、関西学術研究都市の一翼であることは、非常に広域的な役割と責任を担っていることだと思うが、京都府南部と隣接していることは、広域的な役割と責任を担っていることではないので、修正前の文章の方が良かったのではないかと思う。

事務局 火葬場について、パブリックコメントは、規模とか能力とか、そういうことを言っている状況ではないという意見だと思う。
事務局としては、規模とか能力の検討という表現を削除することで、それが際立つとか、姿勢を示せるのではないかということで削除した。
岡田委員の意見を踏まえ、事務局で検討させて頂きたい。
広域的な役割について、南部の市町村との連携が必要であり、より広域的な連携という観点から、関西学術研究都市という表現を追記した。

魚谷委員 リニア中央新幹線について、今回のパブリックコメントでも、大変、市民の関心が高いと再認識した。
パブリックコメント P7 では、リニア中央新幹線はいつ急展開するかわからない状況のなか、この10年間で正念場であり、マスタープランを一層、強力で推進展開することが重要という意見があり、私もまさにその通りだと思う。
中間駅設置が決定してから検討するなど、消極的なものではなく、もっと積極的な表現を計画に記載して欲しいと感じている。
これに対して、中間駅を進めると共に中間駅を核としたまちづくりを検討すると回答しており、⑧大和中央道の回答でも、中間駅設置が決定した時点で道路体系の見直しを行い、必要性を再度検討すると回答している。
もう一歩進んだ表現や積極的な取り組み、リニア中間駅と主要駅をどう繋ぎ、どう展開していくかということも考えないといけないので、もう一歩進んだ表現が必要

だと思う。

事務局 奈良市では、積極的にリニア中央新幹線の新駅設置を誘致しており、現在、平城山駅の近くとJRと近鉄が交差する油阪辺りの2箇所を候補地としている。候補地が一箇所に絞られていれば、もう少し積極的な観点から、まちづくりの方向性、既設道路や施設を結ぶ系統的なまちづくりを考えることができるが、候補地が絞られていないため、現時点ではこの程度の表現に留めている。本計画の次回見直しがいづになるかわからないが、その時点で候補地が決定もしくは1箇所に絞られていれば、踏み込んだまちづくりの方向性を示すことができる。

魚谷委員 候補地を絞るのは奈良市か。

事務局 最終的にJRが決定する。誘致の方法にもよるが、奈良市では2箇所の候補地を提案して誘致している。

魚谷委員 もう一回聞くが、絞り込むのは奈良市か。

事務局 決定権はJR東海である。

魚谷委員 JR東海に2つの選択肢を提示しているのか。

会長 奈良市では、その様な提案をしている。

魚谷委員 パブリックコメントの回答だけ見ると、漠然として弱いのかなと感じるので、今のことも踏まえて、もう少し突っ込んだ表現の仕方を検討して頂きたい。

事務局 大きく表現を変えることは難しいと思われるが、今回の意見を踏まえて修正を検討する。

会長 パブリックコメントに対する回答は、既に公表しているのか。

事務局 本日の策定委員会の意見を踏まえて回答を公表する。

前迫委員 都祁地域では、方針についてももう少し議論して欲しいと意見があるが、地域を代表するテーマに対してあまり指摘がなかったのが、納得されているのかなというところもある。
資料5の地域別構想で、9地域のテーマを比較した時に、似たり寄ったりのフレーズが並んでいる。歴史・文化は共通しているのでやむを得ないが、「個性豊かな」や「活力ある」などはどうなのかと思う。

地域Ⅰの「文化・交流が豊かな里」というのは良い。

地域Ⅷの「奥座敷」は、以前から表現を変えて欲しいと思っていた。例えば、「奥座敷」を「里山」にすれば良い。昔は「里山」というと田舎を表現していたが、現在では、世界レベルで使用している表現で、多様性豊かな場所を指している。こうした意味からも、「里山」という表現の方が世界発信できると思われる。

地域Ⅸに「活力の溢れる・・・」とあるが、地域Ⅲや地域Ⅶにも「活力」とあり、地域Ⅸを「活力の溢れる高原のまち」とするならば、地域Ⅲは「山の辺の活力あるまち」より「山の辺の歴史的なまち」にするなど、地域の特性が出るような表現に変えたほうが良いと思う。

「個性」とは、人に対して使う表現である。そういう意味で、地域Ⅳは「平城宮跡を活かした個性豊かなまち」ではなく、「平城宮跡が息づくまち」などとした方が良いと思う。

地域Ⅶは「活力ある生活」ではなく、「豊かさと学際が調和するまち」など、関西文化学術研究都市であることがわかるような表現が良い。

テーマの表現が重複していて、地域の特徴が出ていない印象を受けるので最終調整して頂きたい。

また、9地域のテーマを見比べると、「活力ある」としていたり、「活力の溢れる」と「の」が入っていたりと表現に整合性がないので、最終調整が必要だと思う。

事務局 表現の重複や整合性などは再調整する。

会長 9地域をそれぞれで検討したら表現が重複したりするので、ざっと並べて検討すれば良い。

オブザーバーの方々もおられて、各地域のテーマはもっと違った表現が良いという意見もあるかと思われるので、最終段階ではあるが、多少の修正は可能ということだったので、この機会に修正して頂きたいと思う。

工藤委員 パブリックコメントに対して、ひとつひとつ丁寧に回答していると感じた。ただ、中には「今後検討させていただきます」や「今後の参考とさせていただきます」という表現がみられたので、積極的な回答をして頂きたいと思う。

会長 全体的に市の回答というのはどこか逃げ道を作っているように感じる。

ただ、都市計画マスタープランの上位計画にあたる奈良市総合計画が現在、第4次後期計画の検討を始めたばかりであり、それと整合性のない表現は使いにくいということは仕方ない。

また、都市計画では奈良県の都市計画区域マスタープランも上位計画であり、どうしようもないといった感じがある。例えば、パブリックコメント P6 にある近鉄奈良線をみると、方向が定まらないという回答となっている。

要するに、近鉄が進めることではあるが、西大寺駅や平城宮跡の横断などの課題に

対して市の確固たる考え方を示した方が良い。

事務局 西大寺周辺の鉄道の一体化について、これは今、県が検討しているが、どのような形とするか決まらない状況である。市の考え方を示せば良いが、最終的には県の判断によるものであり、県としては極端なことは書かないでほしいということなので、市としても苦しい立場ではあるが、整合性の関係で検討するという表現に留めている。

会長 それはわかるが、市はどういう考え方をするのかというのを随所に示して欲しい。大和中央道についても同じである。

林委員 県や市の上位計画があっても、奈良市都市計画マスタープランではこうなのだという、上位計画にも影響を与えるような回答、計画の示し方があっても良いのではないかと思った。

会長 奈良県の計画というが、奈良市の中央を通る鉄道や平城宮跡の公園の進め方とか、これらは奈良市の文化遺産の中心となる場所でもあるので、発言力があっても良いと思うがなかなかそうはいかないというのは決定権がないからかもしれない。しかし、言うべきことは言わないといけない。30年ほど奈良市の市政に関わってきてずっとその様に思っている。

尾崎委員 人口動態について、人口減少が悪いことではない。人口が減少すると活性化が難しいとなるが、それを言い出したら日本全体が必ずそうなるので、あまり気にすることではない。人口が減少するなかで、どのような計画にするかを考えた方が現実的である。

上位計画の総合計画で35万人を目指しているからそれに従うのではなく、実態に合わせて人口減少を前提とした計画とすることで、本計画がより具体的なものと認識されると思う。

基本方針にある「歴史と文化、緑に育まれた古都奈良」は、当然その通りだと思うが、「水辺を守り育てふれあう」について、奈良市の水辺がよくわからない。滋賀県なら琵琶湖と具体的にイメージできるが、奈良で水辺と言われても印象が薄い。水について考えることは大事だが、この辺の表現についてももう少し考えて欲しい。

会長 人口動態について、パブリックコメントP2で、35万が過大ではないかという意見がある。これに対して、地域活力維持のためには一定の定住人口確保が必要という姿勢はそれでいいと思う。

前迫委員 1点気になったところは、地域別構想の指摘が比較的少なかったということ。

これは、各地域の代表が委員会に出席して、意見が反映されたことから、これで良いとされた方も多いと思う。ただ、人口動態を考慮して、今後、産業をどのように活性化するのか、例えば農林業に力を入れるのか、あるいは違う方向性があるのか、もう少し示して頂ければ良かったと思う。

これら人口動態や産業に関するパブリックコメントに対して、「推進の際に参考にする」などはっきりしない回答だったが、これらは重要なことであり、もう少し具体的に示して頂ければ良いと思う。

各委員の意見の通り、具体的な方向性を示すなどもう少し工夫することで、奈良らしいマスタープランとなる。そうでないと、どこの市町村にもあてはまる特徴のないものになってしまう。

2点目は水辺について、奈良市の場合、水辺は主に川、ため池であり、重要なことだと思う。わかりにくいという意見が出るとすれば、「川辺」など表現を変えるなり、川と森と田んぼの繋がりを大切にして水辺を守り育てるなど、前段階に言葉を補えば良い。

例えば災害との関わりでみると、田んぼと川の繋がりとか、人と川の繋がりとか、これら繋がりを大事にしながら災害に強いまちづくりを進めることが重要なので、「水辺とまちが調和した」とか、表現を工夫する必要がある。

水辺は重要なことなので、だれが読んでも納得できるように文を補って欲しい。

尾崎委員 別に水を否定している訳ではなく、奈良の水は一番きれいであって欲しいという気持ちがある。また、それに里山という概念も含まれている。

概要版 P11 にある三条通りの写真について、現在、三条通りに電柱はない。都市景観として、電柱は全て埋設すべきと思っているので、写真を掲載する場合には、なるべく電柱のない写真を使って欲しい。

事務局 人口減少について、総合計画後期基本計画では、人口がある程度減少することは既定の事実として計画を検討している。

そのための対策ということで、人口減少に関する対策プロジェクトを立ち上げ、空き家対策とか子育て問題に焦点を絞り、総合的な対策を進めようとしている。

これらの情報収集を行い、本計画への反映を検討するが、具体的な政策を示すことは難しいと思われる。

水辺について、京都などと比べると川の水量も少なく、猿沢池の水質も良くないなど、水のイメージがわからないというのは理解できるが、公園整備において、猿沢池の水質改善や川の水量対策などを進めており、水辺をまちづくりに活かしていきたいという思いを込めて記載している。

前迫委員 水辺についてはわかりにくいと言った意見もあったので、書きぶりを検討してほしい。ふれあうというよりは親しむと言う方がいいのか、親しんだら危ないのか、検討して欲しい。水辺は必要ということなので、わかりやすい文章として欲しい。

会長 都市計画マスタープランとの関連で、奈良町の活性化に関することはないか。

魚谷委員 奈良町は、行政主導というより、自分達のまちは自分達で考えてつくっていかうというエリアであり、住民自治でゆっくりとまちづくりを進めていけば良いと思っている。

車や電柱の問題など、ハードに関する問題は整理した方が良いが、都市の全体を対象とした都市計画マスタープランにどう関わるのかはわからない。

ある種、特別なエリアとして認識しており、その様に育ってきているので、その方向のままで進めていけたら良いと考える。

林委員 今までの経過からみて、住民主導・行政支援のまちづくりを進めてきたと思っている。世界建築博覧会を契機に、奈良町にもいろいろな施設ができ、その結果として、年間100万人といわれる観光客を呼べるまちになった。

まちづくりの成功例の1つとして捉えられており、このようなまちづくりがいつまでも住民を中心として、住民主導のまちづくりであって欲しいと思っている。

(住民が)できないところは、空き家対策とか電柱の地中化、道路整備等は行政と協力し、住んでいる方は住んでよかったと、観光客にも来てよかったと言ってもらえるようなまちとなったら良いと思う。

空き家問題は計画に盛り込まれているので、その他、特に都市計画マスタープランの中で奈良町を取り上げて欲しいということは特にない。

尾崎委員 奈良の世界遺産は散在しており、点としての観光地だと思う。例えば、興福寺から元興寺まで、近いといえば近いが、あくまで点であり、その中で奈良町が線となっている。観光としては非常にいいムードとなっている。

大宮通りより北側も奈良町であり、この北側の発展により線となるのが特徴だと思う。そのため、一部で良いので奈良町の電柱の埋設化をして欲しい。

奈良町から北側に興福寺を見ると景色が良い。なぜなら電柱が埋設されているから。ただ、ほかの奈良町では、ほとんど電柱が埋設されていない。これは本来おかしい。そういう線として奈良町があることは大事だと思う。

奈良町の実態として店が多くなっている。点と点を結ぶひとつのモデルとして奈良町があり続けてもいいと思う。

魚谷委員 ならまちだけではなく、きたまちとか新たな観光スポットとなっている。

ならまち、きたまち、近鉄奈良駅、JR奈良駅を含めた中心市街地が観光地として魅力的になってきた。

特に最近、海外からの観光客が多く、日本の方もそうだが、奈良のまちは点と点を繋いでまち歩きするまちだと。そういう意味ではいい方向に向かっている。観光として安心安全に巡ってくれるよう住民・事業者としても協力していきたい。

前迫委員 地域戦略に関係するが、奈良町など奈良市内の観光が賑わう一方で、都祁や月ヶ瀬梅林まで足を運んでもらうという、歴史・文化のまちだけでなく、里山など特徴的でない地域が奈良市にあるというアピールをしていく必要がある。

「1日目は奈良市内、2日目は都祁など東部地域に行ってみようか」となるようにしていかないといけない。これには、棚田や高原地域、梅林など仕掛けがないと人も流れない。地域でそういう活動があれば書き込めるのではないか。

会長 これまででた意見に対して、修正できるものは修正し、結果を周知して頂ければ良いと思う。

【オブザーバーによる感想】

会長 オブザーバーの方、感想等あればお願いします。

新堂オブ
(地域Ⅱ) 委員会を拝聴し、かなり共感する部分もある。
活力あるとか、個性あるというのは地域に対して使うのは如何なものかと思う。人間に対する評価を地域に使うことは、そこに住んでいる人に対して失礼になるのではという気がする。

上位計画との関連であるが、都市計画として必要であれば示すべきだと思う。

「リゾート」を「居心地の良さ」と修正したことは的を射ており非常に良い。
水辺について、奈良のまちには水辺は少ないものの、水辺に対する思いがかなり強い。奈良で一番大きな祭りである春日若宮おん祭、春日若宮の神は水の神様である。春日の奥に住む龍神をいかに慰めるかというのが祭りの大きな意味である。奈良にとって水は欠かせないもの。表面的に水が見えていなくても、水に対する意識は非常に強く持っている。

先日改修された入江泰吉旧居の裏には吉城川が流れているが、旧居の崖下は川に面しており、親水空間があったのかと想像される。あのあたりは水門町という町名が示すとおり、正に春日の山から流れてくる水を奈良に流す門である。そういう場所は水辺としてきちんと位置づけて、開発していくことが必要。

青山オブ
(地域Ⅴ) 都市計画マスタープラン策定委員の皆さんが、これだけ深く、上位計画との関係等に配慮しながら進めておられることに対し敬意を表します。

西大寺の駅前において、都市計画も何もなく漫然とまちが広がり限界が来ている。これを何とかしないといけないと切実に考えている。パブリックコメントでも、そのような意見が大変多い。

例えば、谷田奈良線と駅南側にできた道路を繋ぐことはできないといわれる。これができないと、いくら都市計画をやっても開かずの踏切への対応は解決しない。近鉄線は地下にするしかないと思う。これを県が検討していると言うが一向に構想が見えてこない。

学者先生に木簡があるからだめだと、季節によって 10cm の差があると言われて
いるだけなのに、そんなことは色々な方法で解決できる。東京では地下鉄が縦横に
走っているが全部解決している。これは奈良県でも急いでもらいたいと思う。

いずれにしても、一生懸命やっていることがよくわかったので、現段階では大いに
協力して待たざるを得ないと思う。

水辺の問題であるが、東京都は各地に親水公園を設けており、毎週日曜日になると
渾々と水が湧き出て循環している。

奈良市では水が少ない。水辺に親しむという景色や、京都の鴨川のように水辺に行
くことはできない。水の流れている川もない。昔はもっと水が流れていたようだ。
もう少し水に関することをマスタープランのなかに入れて頂きたい。

上野オブ
(地域Ⅵ)

リニア中央新幹線の奈良市駅は、100年に一度の奈良市のチャンスだと思う。

アクセスがいかに重要であるかということは、最近、開通した北陸新幹線の金沢を
見てもよくわかると思う。多くの人が金沢に集まる。

先週の地価公示を見ても、リニア中央新幹線の開業に伴って名古屋近辺の地価が上
がっている。北陸新幹線で金沢の地価も上がっている。

地価が上がるということは、それだけ人気があるということであって、人気があっ
て人が集まる。

人が集まれば、ものを買う、ホテル誘致や観光にも有利に働く。そうすれば、地域
が潤い発展する。地域が発展すれば更に人が集まる。

プラスのサイクルで経済がうまくいく。その要がアクセスで、その中心としてリニ
ア中央新幹線の奈良市駅が一番重要となる。

2つ目として、最近、荒井知事と仲川市長の対談があった。

そのなかで、奈良市と奈良県は地域協定を結ぶとのことだった。そうなれば、奈良
市が県に対して意見をもっと言えるようになる。もっと奈良市が積極的になれる。
また、西大寺付近の問題は、全国的にみても最難関の問題だと言っていた。これに
ついては奈良市側から県に対してもっと意見を述べることができるのではないかと
思う。上位、下位の関係ではなく、どんどん意見を言っていけるようになれば良いと思う。

中口オブ
(地域Ⅶ)

火葬場の問題とクリーンセンターの問題について、長年議論されてきたが、一向に
解決に近づいていない。自治連合会としても、市民生活に一番密着した問題だと考
える。これについては、これから検討していくとのんびりしている時期ではないと
感じている。その辺がぬるいというか遅いと感じている。

リニアの件について、昨年、リニア教室をやろうとして市に相談したが、北部地域
という言葉は控えて欲しいと言われ、そのようなことでいいのかと思い県に相談し
たら、県も同じことを言う。京都や郡山は、リニア中央新幹線誘致をアピールして
いる。奈良市は人の顔色ばかり気にしている。はっきりしてどんどんやっていくべ
きではないかという気がしている。

現在、奈良市の「市民参画及び協働によるまちづくり条例」の見直しに基づき、自

治協議会を立ち上げようと一昨年からは始めている。

地域のことを一番よくわかっているのは住民なので、地域Ⅶのテーマにある活性化という表現に変えて「住民が主体となる住民自治」などとして頂いたらどうか、「住民自治をもって活性化していく」というような言葉を入れて頂ければありがたいと感じる。

上田オブ
(地域Ⅷ) 合併から約 10 年が経ち、月ヶ瀬を含めた計画を検討されていること御礼を申し上げる。

現在、月ヶ瀬梅林が満開で、来訪者に喜んで貰っているが、先程指摘のあった通り梅林は時期的なものであり年間を通した観光資源とならないので、歴史・文化や豊かな自然などを観光資源として、旧市内の観光から東部地域にも足を伸ばしてもらえそうな観光ルートの設定などを進めていって欲しい。

会長 地域Ⅷのテーマについて、「奥座敷」を「里山」にしてはどうかとあったがどうか？

上田オブ 「奥座敷」というと古いイメージ、「里山」というと今どきの感じかなと思ったが、どちらが良いというのは判断しかねる。

尾崎委員 奥座敷といたら、ほとんどのところが名湯。月ヶ瀬にもあるんだろうが、名湯を掘って下さい。

上田オブ 月ヶ瀬にも温泉があり、湯は良い。ただ、奥座敷と里山はイメージ（示す方向性）が違うので、どちらが良いかは私では決めかねる。

青山オブ 宝塚が関西の奥座敷。奥座敷というのはちょっと困難な感じもする。

植オブ
(地域Ⅸ) 奈良町で観光した後に東部に足を運んで貰えるような観光ルートがあれば、地域の活性化に繋がると思う。都祁にもスズランや題目立てなど時期的なものはあるが、年間を通してこれといったものがないので、行政と一緒に発掘していけたら良いと思う。

前迫委員 里山と奥座敷について、どちらにするかは事務局にお任せしますが、温泉と梅林で 1 年の稼ぎを 1 ヶ月で稼ぐというのはありだと思っているので、奥座敷もそういう意味では良いのかなと思った。

ただ、里山をローマ字で書いたら世界発信できる、英語で通じる。SATOYAMA イニシアティブという。春日山でも外国の方が多くなってきたが、外国の方に里山や梅林、都祁の田舎の暮らしを体験してもらえば、都祁の魅力が徐々に広がるので、里山も良いと思う。

	<p>会長 以上、委員の皆様とオブザーバーの方から色々と意見を伺った。最終的に事務局の方で若干修正していただくところはあるが、できたものを策定委員会としては、最終的には市長に報告するということが規則となる。</p> <p>そのようにさせて頂くがよろしいか。ではそのようにさせていただきます。</p> <p>事務局 本日いただいたご意見について、修正させていただく箇所については、整理して後日、送付させていただきます。</p> <p>委員の皆様には、約2年間という大変長い間ご審議いただきありがとうございました。</p> <p>今後の予定として、策定委員会でとりまとめていただいた都市計画マスタープラン原案を都市計画審議会である奈良国際文化観光建設審議会に報告し、その後、市民の皆様公表したいと思います。</p> <p>それでは、これをもちまして第6回奈良市都市計画マスタープラン策定委員会を閉会させていただきます。ありがとうございました。</p>
<p>資 料</p>	<p>【資料1】第5回委員会意見回答</p> <p>【資料2】第5回委員会意見に対する修正（計画抜粋）</p> <p>【資料3】パブリックコメント意見回答</p> <p>【資料4】パブリックコメント意見に対する修正（計画抜粋）</p> <p>【資料5】改訂 都市計画マスタープラン概要版（案）</p> <p>【資料6】説明用パワーポイント</p>